

平成26年度 岡山県農林水産総合センター「森林研究所(木材加工研究室)」

機関評価評価票

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 3人	優れている 2人	妥当 0人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 優れた運営である。 2 限られた人員と予算の中で、森林研究所木材加工研究室は、材質・加工技術・木質材料の3分野を基軸とした運営方針で研究を行い、日本の公設試験研究機関のトップレベルにある。これまでも時代の変化に対応して運営されているが、今後林業が発展するには建築の分野で木材を量的に多く使う必要があり、木造建築・木質構造の分野を柱の一つに加える必要がある。この分野の研究の進展が岡山県の林業の発展のために強く望まれる。					
2 組織体制及び人員配置並びに 予算配分	非常に優れている 2人	優れている 2人	妥当 1人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 厳しい予算、多いとはいえない人員で努力している。 2 組織体制は出来ているが、研究に対しての増員・予算の増額が必要ではないか。 3 多少の改善が見られている。財政的に苦しいとは思うがなお改善の余地がある。 4 岡山県森林研究所木材加工研究室は、木材加工と木造建築の二つの研究室の機能を果たしているが、人員不足の感がある。今後はこれまで以上に建築関係の研究に力を入れることが時代の要請であるので、この分野の研究員の人員増を図ることが望まれる。					
3 施設・設備等	非常に優れている 1人	優れている 3人	妥当 1人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 平成26年度に新しい設備が入るが、新しいテーマ、他地区で取り組んでいないテーマに挑戦出来るようにしてほしい。 2 時代の流れによって必要な機械等は必要である。 3 積極的に導入されている。 4 これまで研究機器の導入・更新が確実に行われている。今後は木質構造系の研究機器の導入が望まれる。					
4 研究成果	非常に優れている 3人	優れている 2人	妥当 0人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 乾燥への意識改革、岡山県産構造用製材のスパン表作成により木材需要拡大に期待する。 2 実証的成果を含め進展が著しい。 3 研究員の平素の地道な研究成果が実を結び、数々の研究を完成させると共に、特許を取得している。現在の研究員のレベルが高いことを証明している。					
5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、 依頼試験、情報提供等の実施状況	非常に優れている 1人	優れている 4人	妥当 0人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 業界関係者に高い評価を受けているが、一般県民に対するアピールに工夫が必要である。 2 多忙かと思うが幅を広げて、得られたデータを再解釈するなど更なる改善の余地がある。 3 多くの技術相談業務・普及業務・依頼試験業務をこなしている。					
6 人材育成	非常に優れている 1人	優れている 3人	妥当 1人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 研究員が少数なので大変だと思う。 2 研究成果を学会等で積極的に発表し、他の研究者との交流の中で更なる研究のレベルアップを図っている。					

7 他機関との連携	非常に優れている 2人	優れている 3人	妥当 0人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 積極的に連携している。成果も上がっている。 2 特に大学との連携が十分に行われている。更なる連携の継続を期待したい。					
8 県民・地域への貢献	非常に優れている 1人	優れている 4人	妥当 0人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 業界関係者に高い評価を受けているが、一般県民に対するアピールに工夫が必要である。 2 研究成果が更に貢献できると良い。 3 研究成果の普及啓蒙活動に積極的に努めている。一般市民ならびに学校生徒への普及活動も十分行われている。					
9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 1人	優れている 3人	妥当 1人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 確実に対処していることが伺われる。 2 真摯な対応である。 3 十分行われている。					

総合評価	非常に優れている 1人	優れている 4人	妥当 0人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1 業界のために努力、貢献度が高い。これからも頑張ってもらいたい。一般消費者へのアピールが必要である。 2 県産ヒノキは2年連続の生産量全国1位になっているため、全国に県産ヒノキの製材品・商品を販売するため色々な研究・開発に必要な人材・予算の増額が必要である。 3 色々と予算、人材面を含め厳しい状況かと思う。民間企業も含め更なる発展を目指していただきたい。 4 森林研究所木材加工研究室は、限られた人員と予算の中で、材質・加工技術・木質材料の3分野を基軸とした運営方針で研究を行い、日本の公設試のトップレベルにある。これは研究レベルの高い現在の研究員が、岡山県の林業活性化のために長年あるべき研究室の姿を模索しながら研究して来られたことに起因する。更に、これまで研究室を支えて来られたOBの努力も評価しなくてはならないであろう。 5 時代の変化に対応してこれまで運営されて来ているが、今後は研究員増を前提とした木造建築・木質構造の分野を研究の柱の一つに加える必要があると考える。今まさにその時機が来ていると強く感ずる。 6 岡山県の林業の発展のためには、森林研究所木材加工研究室の存在価値は極めて高い。更なる発展を期待したい。					